



英国交通省(DfT)への訪問報告



英国交通省 (Department for Transport) は、ロンドンの中心街 Victoria station から徒歩 10 分ほどのビルの中にあります。

交通省は航空、海運、鉄道、自動車など運輸行政全般を担っていますが、それほど大きくないビルのほんの 2 フロアーしかなく、実務を行う部署は各地に点在していると思われます。

英国航空事故調査委員会 (AAIB) は、交通省から予算を受ける独立組織となっています。

今回の交通省訪問の目的は、英国において航空事故等の大災害が発生した場合の政府の対応はどのようになされるのか、また、被害者・遺族に対してはどういう組織がどう関わっていくのかを調査することにあります。以下にその調査内容を報告します。

～イギリスにおける災害対策について～

はじめに

イギリス政府は、想定し得るあらゆる災害についてあらかじめ対策を用意している訳ではないが、災害の規模および適切な対策を決定する中心的な委員会として、民間緊急事態対策委員会がある。

民間緊急対策事務局

首相官邸 は、既存の緊急対策計画を企画し検討する常設委員会である民間緊急対策事務局を通じて、テロ以外の事態に関する中央政府危機対策に責任を負う。災害が発生した場合、民間緊急対策事務局は、民間緊急事態対策委員会を招集する。

民間緊急事態対策委員会 (COBRA)

民間緊急事態対策委員会は、政府の全閣僚の他、その省庁の官僚から構成される。委員会の通信施設とコンピューターは、政府の全省庁に接続されている。危機が発生するや否や、委員会はただちに集合し、緊急事態の規模に応じて不要な部署は警戒態勢を解かれる。

危機レベル

危機レベルには 3 段階ある。

1. 一つの省庁のみで処理できる災害。事後の影響がない、単独の事故。
2. より重大で、複数の省庁が関与するもの。
3. 政府レベルの緊急の指揮を必要とするもの。

緊急事故対応

通常、警察は全ての事故処理の先頭に立つ。警察は、救急車の手配、消防署、病院、自発的支援組織（赤十字等）との連携をとる。地方警察は、イギリス地方行政区であるカウンティによって組織されている。ロンドン地区には、ロンドン緊急出動連携要領（LESLP）がある。

緊急事態管理レベル

緊急出動ごとに、3段階の対応レベルがある。

1. ブロンズ. 実際に現場で関与する担当者の基本対応レベル。
2. シルバー. 組織的な編成を必要とするレベル。
3. ゴールド. より複雑な対応が必要なレベル。一つの警察地区に一つだけで、COBRAと直接連携して活動するレベル。

ゴールドレベルでは政府は、報道管理センターを立ち上げ、適切に調整されたメッセージが公開されるようにする。また、COBRAの広報部門は緊急事態の報道機関による報道をモニターする。

家族との連絡及び支援

警察は、家族と連絡する役割を果たし、家族の死亡または重傷を近親者に通知するとともに、職務上、死者および負傷者に関する情報を収集する。人道的な支援は自発的支援組織によって提供され、主なものは赤十字、王立婦人奉仕活動協会（WRVS）および宗教団体である。

対応組織間の連携

民間緊急対策事務局は、緊急事態を取り扱う際の目標（人命救助、新たな死亡または負傷の防止、可能な場合には財産の保護、可及的速やかな通常生活への復帰）を記載した文書を発行する。事務局は、また、最善の措置について警察部隊に助言し、警察本部長は経験を比較・共有するために、定期的に会合をもつ。

外務省

外務省の領事セクションは、緊急事態に遭遇した外国人の利益に配慮する責任を負う。また、支援電話回線を設置する責任も負う。

検視官（Coroner）

検視官は古くからある国王直轄の官職で、暴力的、突発的、不審死の原因を特定する。検視官は独立しており、死因を特定するためにすべての事実を調査し決定を下す。その決定は、警察および検察庁が法廷審理を開始するきっかけとなり得る。

右から Cap. Pat Lawrence (IFALPA LEGAL 委員長)
Mr. Terry Russell (DfT)、日乗連調査団



以上